薬局栄養相談における管理栄養士と薬剤師との連携

○ 古川武史１）　辻麻依子２）　光武充代2）辻恭子３）　澤田真澄４）　大迫さやか５）

溝上美代子５）　辻智幸５）６）　辻省治郎２）５）

１）辻薬局一中通り店　２）辻薬局城内店　３）辻薬局刀町店

４）辻薬局前原駅前店　５）辻薬局本部　６）辻薬局栄町店

【目的】かかりつけ薬局や薬剤師、また、健康サポート薬局などの制度が整備される中、保険薬局の地域住民に対する健康支援は、益々重要となっている。取り分け健康の根本である栄養管理には期待が寄せられている。当社ではいち早く管理栄養士を薬局に配置して、乳幼児栄養相談や健康イベントを開催。また、調剤待ち時間を利用した栄養相談にも力を入れてきた。これら管理栄養士による介入事例については、個別に記録を残している。そこで今回、これらを解析して、現状を把握すると共に、今後の展開に繋げる問題点の抽出を試みた。

【方法】平成28年7月～平成30年1月まで26回開催された「すくすく栄養相談」「すこやか栄養相談」及び薬局待合室での栄養相談の全記録、228件を解析対象とした。データーは個人情報を排除して匿名加工情報とした。１）性別・年齢　２）聞き取り調査の店舗・形態　３）健康食品・サプリメントの利用状況　４）相談の具体的内容　５）薬剤師との連携　６）患者疾患名について解析を試みた。

【結果】１）相談者は60歳以上の女性と、偏りがみられた。２）健康相談会に自ら参加された方は12.7 ％であった。３）健康食品やサプリメントを利用している方は25.9 ％であった。４）相談については、漠然とした健康相談が多く、次いで自身の疾患の話が多かった。５）管理栄養士から薬剤師への問い合わせは4.8 ％であった。６）処方箋応需先とは関連の薄い内科系疾患を合併している患者も少なくなかった。

【考察】健康栄養相談における管理栄養士の介入は、地域住民や患者に対して非常に好評であり、信頼関係の構築にも役立っている。専門性を活かした献立の企画や乳幼児サポートについては、今後も是非、活動を期待したい。一方、改善点も見えてきた。現行では健康相談対象者に偏りがあり、幅広く地域住民に貢献できる方法を考えたい。また、今回の結果では、管理栄養士と薬剤師との連携は、残念ながら十分と言えるものではなかった。患者の病態や服用薬については薬剤師の情報が必須であり、双方の情報が簡便かつ正確に把握できる体制が必要である。特に糖尿病や腎機能低下患者、フレイル等に対しては綿密な栄養管理が必要であり両者の協力が不可欠と思われた。また、単回に留まらない継続した支援が重要と考えられた。

【キーワード】管理栄養士　栄養相談　かかりつけ薬局　糖尿病　腎機能低下